

# 乙 貞

第138号 通巻24 第5号

2005年1月15日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒 524-0212

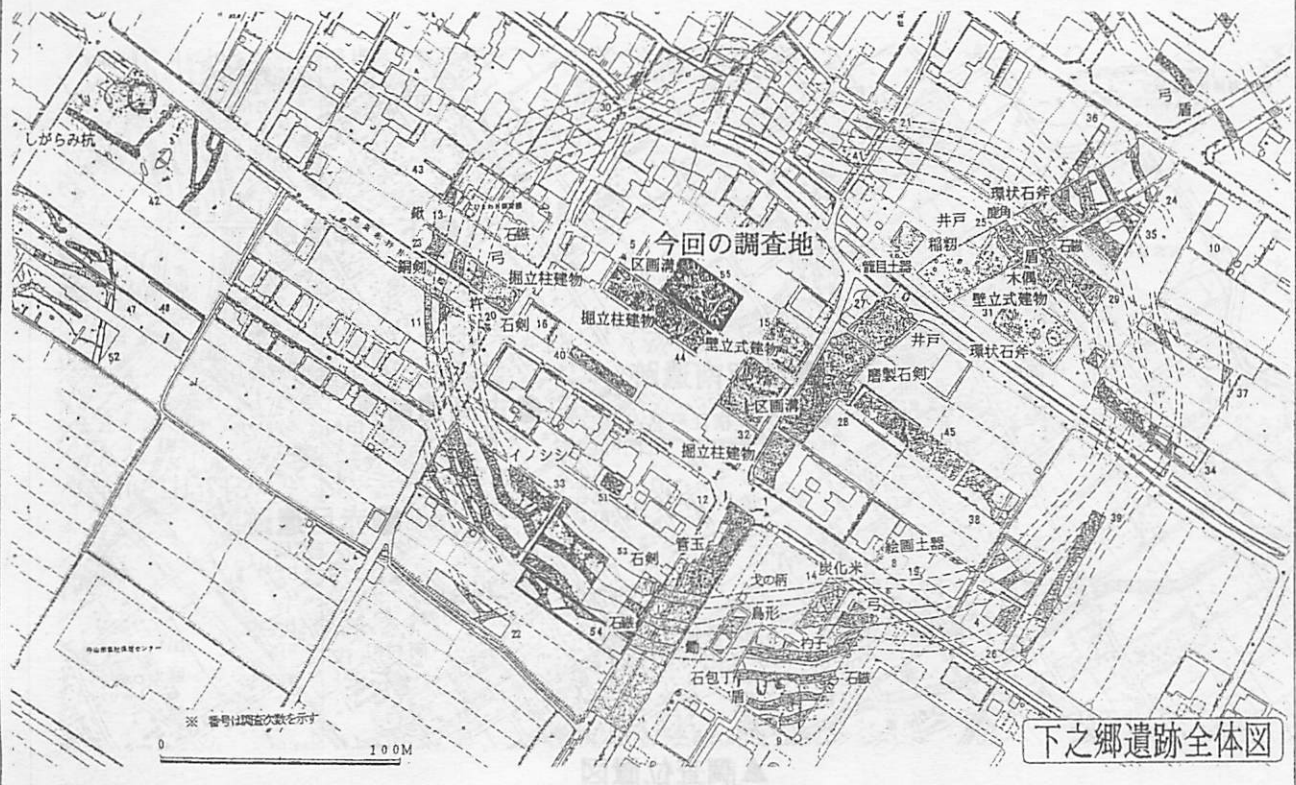
守山市服部町2250番地

## 発掘調査だより

### 1. 下之郷遺跡 55 次調査

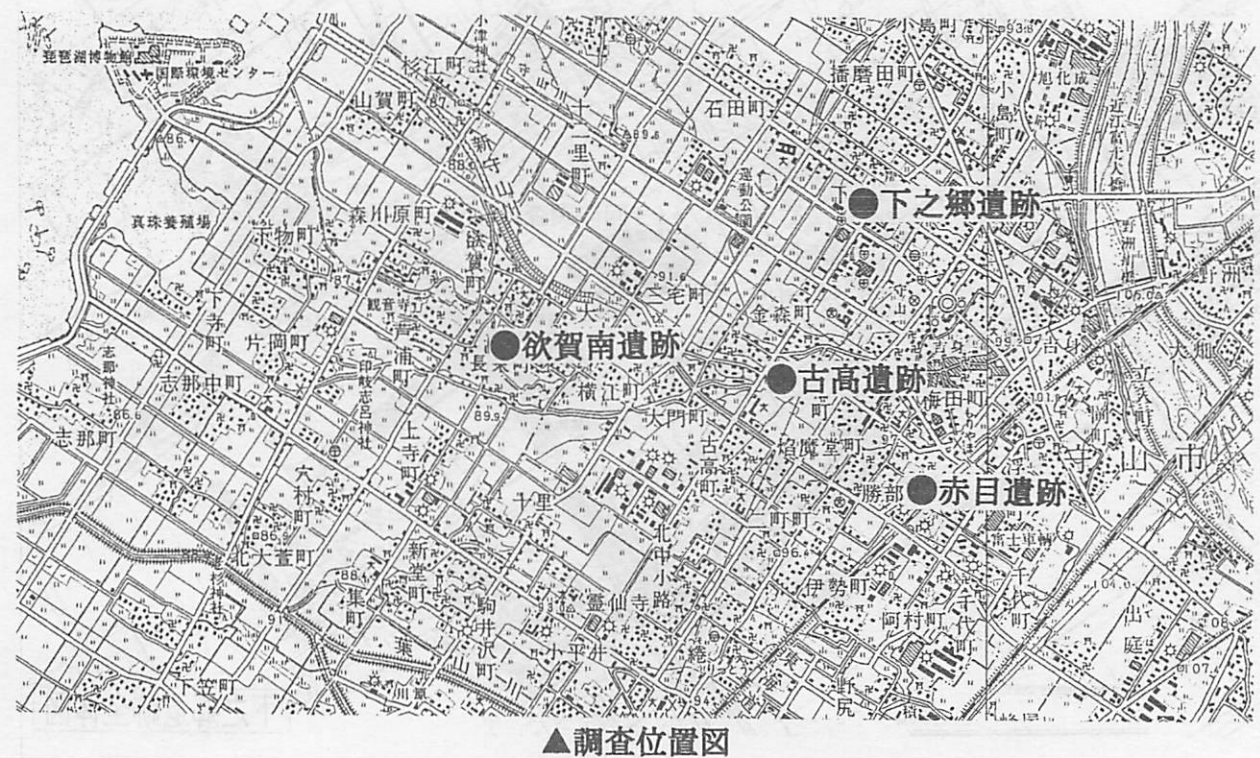
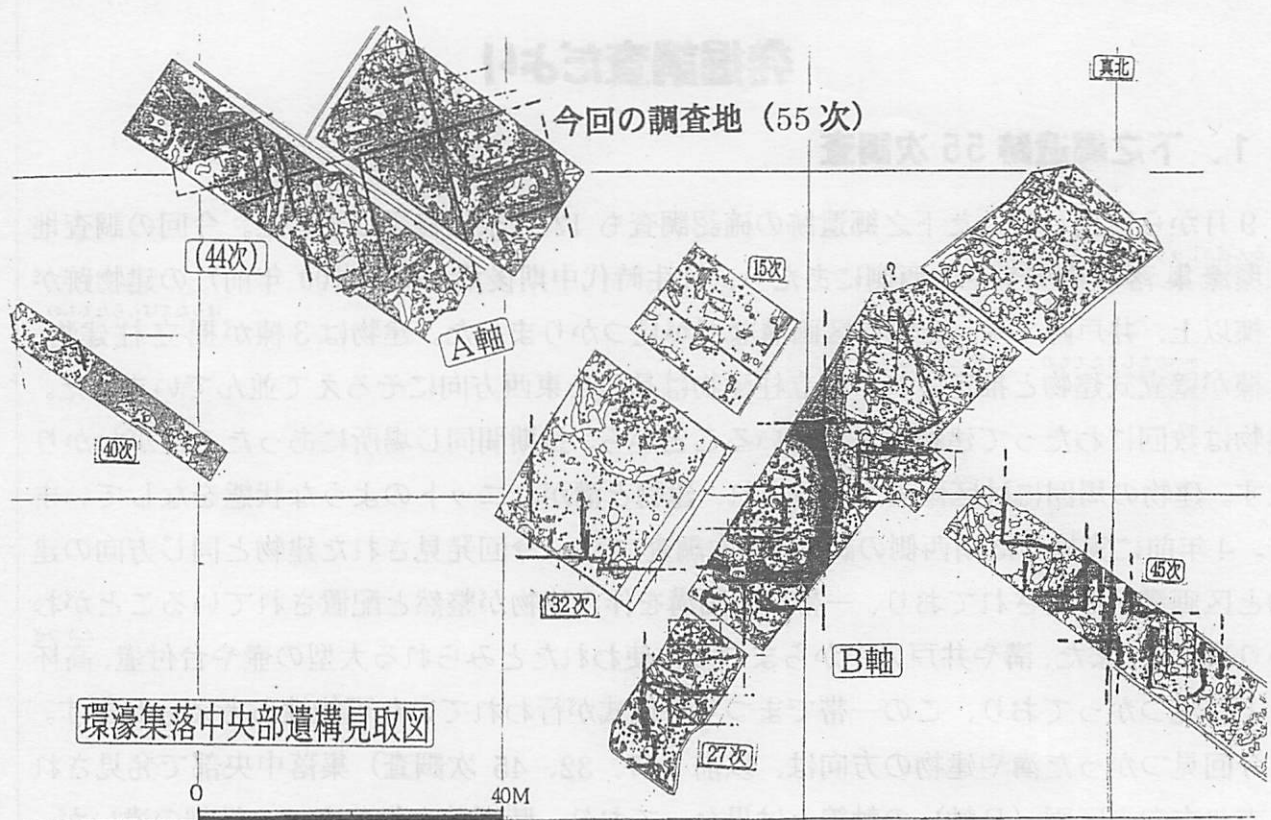
9月から実施していた下之郷遺跡の確認調査も12月末に終了しました。今回の調査地は環濠集落の中央やや北西側にあたり、弥生時代中期後葉（約2,100年前）の建物跡が5棟以上、井戸跡1基、それに区画溝などが見つかりました。建物は3棟が掘立柱建物、2棟が壁立式建物と推定され、掘立柱建物は長辺を東西方向にそろえて並んでいました。建物は数回にわたって建替えられていることから、長期間同じ場所にあったことがわかります。建物の周囲には区画溝が配置され、建物と溝がユニットのような状態をなしています。4年前に実施した南西側の調査(44次調査)でも、今回発見された建物と同じ方向の建物と区画溝が確認されており、一帯に区画溝を伴う建物が整然と配置されていることがわかりました。また、溝や井戸の中からはまつりに使われたとみられる大型の壺や台付壺、高杯などがみつかり、この一帯でまつりや儀式が行われていた可能性も考えられます。

今回見つかった溝や建物の方向は、以前(27、32、45次調査)集落中央部で発見された南北方向の区画(B軸)の軸線とは異なっており、時期差や集落内での役割の違いが



空間としてあらわれたなどの可能性が考えられます。いずれにしても、弥生時代中期の環濠集落の中心部に特殊な区画や建物を配置した例の発見は少なく、当時のムラの様子をさぐるうえで、重要な発見です。

12月11日（土）に行われた現地説明会には、市内外から500人あまりの見学者が遺跡を訪れ、はるか弥生時代に思いをはせていたようでした。（川畑）



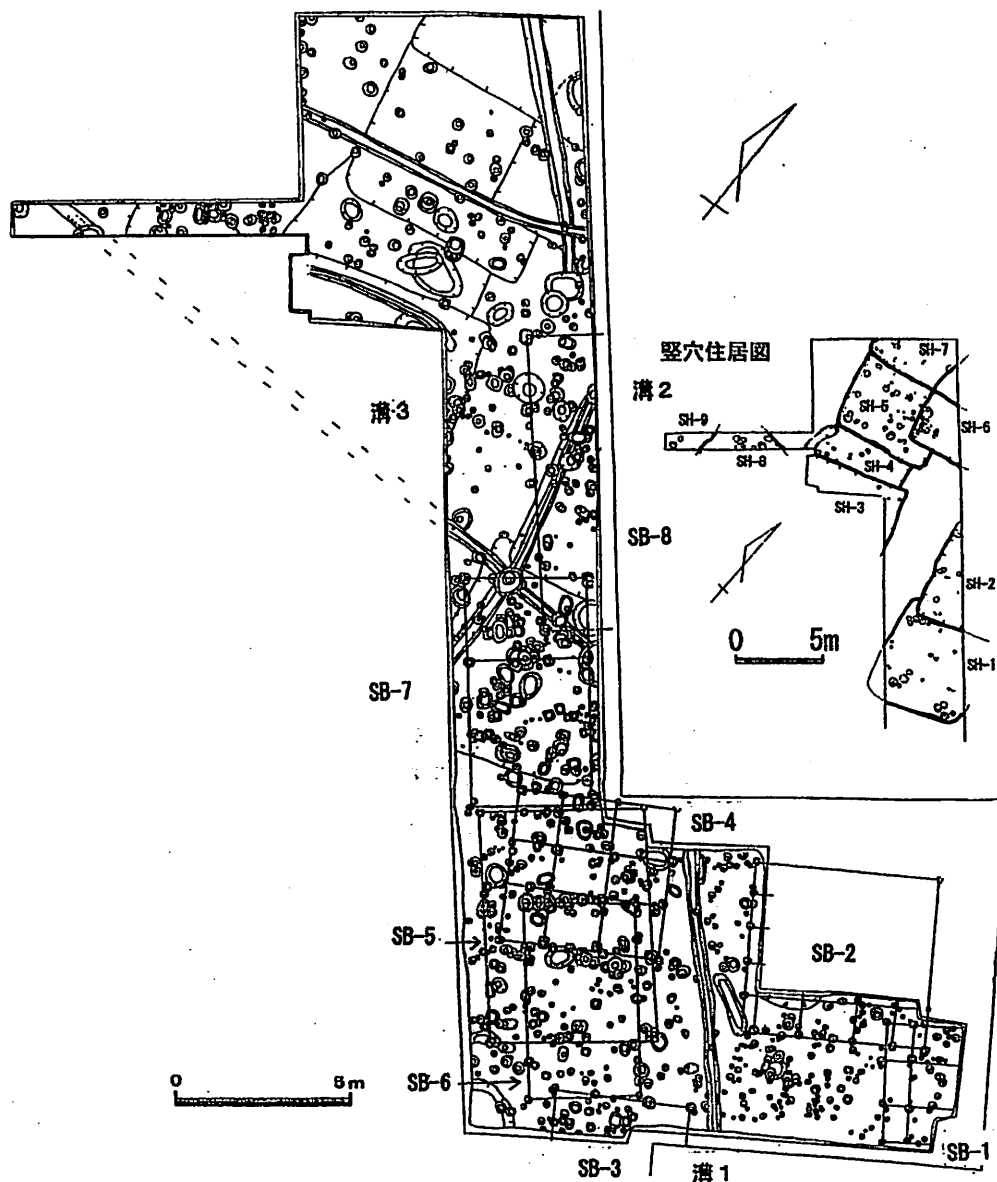
## 2. 古高遺跡の調査

守山南中学校の東側で実施していた調査も 11 月末で終了しました。今回の調査では弥生時代後期から古墳時代前期の<sup>たてあなじゆうきよ</sup>竪穴住居 9 棟 (SH-1~9) と溝、土坑、平安時代後期から鎌倉時代にかけての掘立柱建物 8 棟 (SB-1~8) などを検出しました。竪穴住居は SH-1、2 が弥生時代後期で、SH-3~9 が古墳時代前期のものです。弥生時代の住居がなくなった後に溝 2 (古墳時代前期) が掘られ、その北側に古墳時代前期の住居がつくられていることから、溝 2 は住居群を区切る区画溝ではないかと考えられます。溝 2 より新しい溝 3 (古墳時代前期) も同じ性格が考えられます。

掘立柱建物は平安時代後期の建物 (SB-5~8) が溝 1 と平行する向きに建てられているのに対し、鎌倉時代の建物 (SB-1~4) は現在の地割に沿って建てられているなど、建物の向きが時代によりやや変化していることがわかりました。

以上、今回の調査によって古墳時代の竪穴住居が集中して発見されるなど、古高遺跡を考えるうえで貴重な成果をえることができました。

(森山)



▲古高遺跡遺構全体図



### 3. 赤目遺跡の調査

12月中頃から勝部町地先において、宅地造成工事に先立ち発掘調査を実施しています。調査地は乙貞135号で紹介した場所の南隣になります。調査は1月中旬まで行う予定ですので、調査成果は次号で紹介したいと思います。(森山)

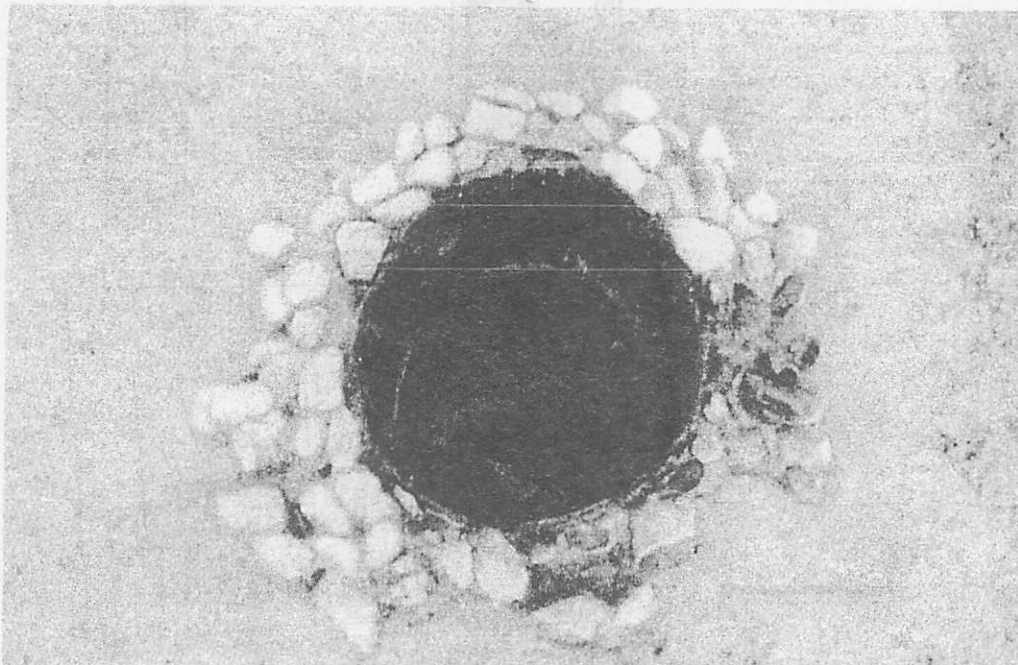
### 4. 欲賀南遺跡の調査

区画整理工事に伴う発掘調査は現在、欲賀団地の西端付近の水田地と畑地(欲賀町字高原、越細)を調査中です。ここからは、平安時代後期から鎌倉時代にかけての建物跡や井戸跡、溝などがみついています。建物は周囲から一段高くなった畑地部分から集中して見つかり、同じ場所で何度か建替えられたことがわかります。井戸はやや離れた水田地から4基が見つかりました。現在でもコンコンと水が湧き出ており、この一帯が湧水の豊かな土地であったことを物語っています。

この時期の集落は、現在のように家が密集して大きな集落をつくるのではなく、<sup>ちえん</sup>地縁・<sup>けつえん</sup>血縁で結ばれた小規模な集落が散在しているのではないかと考えられています。欲賀南遺跡の場合もこれまでの調査により、境川右岸の畑地や水田地(欲賀町字大蔵、高原、越細など)に建物群が分散してつくられていることがわかってきました。こうした集落は、欲賀南遺跡の北で確認されている「堀囲いの屋敷地」をもつ大規模な集落(欲賀遺跡や欲賀城遺跡)の前代の集落としてとらえることができるでしょう。

欲賀南遺跡では平成17年1月29日(土)午前11時から発掘調査成果報告会を開催します(小雨決行、荒天時は翌30日に延期)。現在調査中の発掘現場と合わせ、今年度発掘された弥生時代から江戸時代までの出土品や写真パネルも展示する予定です。郷土の歴史に触れる機会として、ぜひ見学していただければと思います。

(小島)



▲平安時代後期の井戸跡(欲賀南遺跡)